

かけはし



地域医療連携交流会・特別講演会を開催



病院長
ももい まりこ
桃井 眞里子 医師

平成28年1月26日に、医療連携にご協力をいただいている地域の紹介医療機関の方々をお招きして、「国際医療福祉大学病院 地域医療連携交流会・特別講演会」を開催しました。会では、桃井眞里子病院長より日ごろのご支援・ご協力に感謝するご挨拶の後、下記の通り当院の医師より一般演題発表と特別講演を行いました。

I. 一般演題 座長：脳神経外科部長 橋本雅章

演題1 『ロボット支援前立腺全摘術100例達成報告』

演者：腎泌尿器外科医長 稲井広夢

演題2 『開心術 100例達成報告』

演者：心臓外科部長 國友隆二

演題3 『病診連携で診断・治療を行ったインターフェロン著効後発癌の一例』

演者：消化器内科上席部長・副院長 大竹孝明

II. 特別講演 座長：循環器センター長・副院長 柴 信行

『消化器内科診療の昨日・今日・明日』

演者：消化器センター長 高後 裕



消化器センター長
こうご ゆたか
高後 裕 医師

高後裕医師：プロフィール
旭川医科大学名誉教授、札幌医科大学卒、医学博士、
前旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学分野教授、
国際医療福祉大学教授、予防医学センター長
日本消化器学会認定指導医・専門医



えべ ひろし
江部 寛 那須郡市
医師会長



すずき あきひろ
鈴木 明裕 西那須
野・塩原地区医師
会長

同日（平成28年1月26日）に、国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク第一回役員会が行われ、同日付で本ネットワークが発足することになりました。栃木県北地域においては、地域完結型の質の高い医療・介護・福祉の実現が喫緊の課題とされます。本ネットワークは、那須郡市医師会と国際医療福祉大学病院の強い連携を基盤として、医療・介護・福祉の多職種ネットワークを形成し顔の見える連携を行うことを目的とします。役員会では会則の制定が行われ、初代会長に西那須野塩原地区医師会・地区医師会長の鈴木明裕先生が、副会長に黒磯那須地区医師会・地区医師会長の三森薫先生が選出されました。



地域医療連携室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

TEL0287-38-2786 (直通) FAX 0287-38-2787

医療相談室 月曜日～土曜日 9:00～17:30

TEL0287-38-2798 (直通) FAX 0287-38-2787

休診日・夜間等の救急紹介の場合は、0287-37-2221 (代表)

地域医療連携室ホームページ URL: <http://hospital.iuhw.ac.jp/cooperation/index.html>

那須塩原市の取り組み

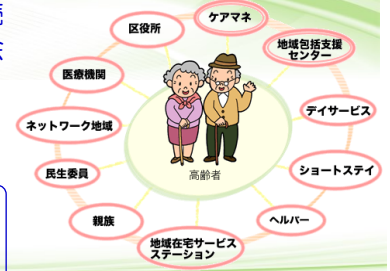
みなさんの元気を支える「地域包括支援センター」

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように支援を行う総合相談窓口です。相談には、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師などの専門職が連携して、総合的な支援を行います。

地域包括支援センターではこんな業務をしています。

自立して暮らせるよう支援します。（介護予防ケアマネジメント）

「要支援1・2」と認定された方に、できる限り自立して生活することを目的とした「介護予防サービス」を提供するための「介護予防ケアプラン」を作成します。



地域包括支援センター寿山荘（じゅざんそう）

地域包括支援センター寿山荘は、黒磯駅西側の市街地を形成している圏域の、住宅地が多くを占める地域を担当しています。

地域のさまざまな関係者の方々と連携し、皆さまが住み慣れた地域でいつまでも健やかに暮らせるよう支援させていただきます。

<担当地区>黒磯地区・厚崎地区の一部（本郷町 新朝日 宮町 本町 黒磯 幸町 錦町 住吉町 豊町 中央町 高砂町 弥生町 橋本町 桜町 材木町 大黒町 若葉町 東大和町 末広町 上黒磯 下埼玉 上埼玉 南埼玉 清住町 新緑町 松浦町 春日町）



左から）高瀬 社会福祉士
星野谷 保健師
相馬 主任介護支援専門員
薄井 社会福祉士



地域包括支援センター 寿山荘

那須塩原市より委託を受けた
高齢者福祉の総合相談窓口です。
65歳以上の方を主に担当しています。



※那須塩原市の許可を得て使用しています

<連絡先>地域包括支援センター寿山荘
那須塩原市住吉町5-10
☎ 0287-62-9655
営業日：年中無休 9：00～18：00

地域包括支援センター秋桜の家（こすもすのいえ）



左から）平塚 社会福祉士
増淵 主任介護支援専門員
菊地 看護師

<担当地区>東那須野地区

当センターは、那須塩原市の玄関口である那須塩原駅を中心とした地域を担当しており、医療法人 渡部医院が那須塩原市から委託を受け、看護師・社会福祉士・主任ケアマネの3人体制で東那須野地区の高齢福祉のために日々奔走しております。東那須野地区には、内科・整形外科・婦人科・耳鼻科・眼科・歯科・往診専門医、と複数のしかも専門的な医療機関が存在しており、また、介護事業所も、特別養護老人ホーム・老人保健施設の他、通所介護や訪問介護等の在宅サービスや地域密着型のサービスがあり、医療・介護共に充実した地域です。

<職員からの一言>

- 「入職して7ヶ月が経ちました。まだまだ駆け出しではありますが、高齢者の皆様が安心して暮らせる地域づくりのお手伝いが出来ればと思っております。」（菊地）
- 「日頃よりお世話になっています。私は、地域生活に伴う生活支援、介護保険の認定相談、サービス相談等からさせて頂き、退院後の生活をクリエイティブに、自立した生活をサポートしていけるよう頑張っていきたいと思っております。」（平塚）
- 「地域包括支援センター開設から早10年。年季と共に白髪と皺は一人前になりました。今後益々深刻化する高齢者問題に、白髪と皺よりも実績を増やすよう精進して参ります。」（増淵）

<連絡先>地域包括支援センター秋桜の家

那須塩原市大原間83（医療法人渡部医院に併設） / ☎ 0287-65-2972

営業日：月～金 8：30～17：30、土 8：30～12：00、日・祝祭日休み

小児科診療について

注意欠如・多動症（ADHD）等、発達障害診療を行っています。



小児科副部長
もんてん ゆきふみ
門田 行史 医師

ADHDは、5%程度の児童に発症する発達障害です。3-4歳の健常児がもつ多動・衝動性は、「子供らしさ」と表現されますが、注意欠如多動症（ADHD）においては、4歳以降に「年齢不相応な多動・衝動性」が顕在化します。さらに、診断・治療が遅れた場合、症状の結果生ずる困難な生育環境が、二次的に自尊心の低下や家庭や学校における問題行動を引き起こすことが社会問題となっています。治療は、両親が子どもの頑張りを受容できる環境調整、リハビリ、薬剤治療が中心となります。当院では、発達・神経外来、およびリハビリテーションと協働し、環境調整のための具体的なアドバイス、リハビリ、および、治療薬の適応を判断し、多くの子どもたちが健やかに育まれるよう努めております。幼稚園、小学校で落ち着きがない、忘れ物が多く悩んでいる、中学生になっても忘れ物が多い、等の悩みを抱えている患者様がいらっしゃいましたら当院にご紹介ください。

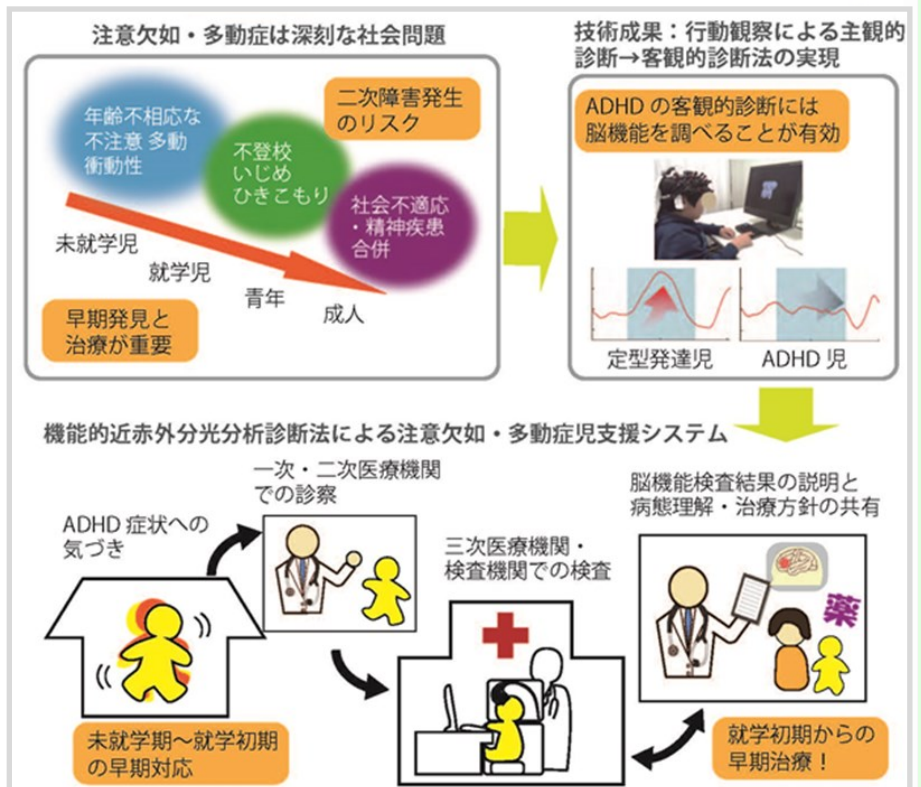
門田行史医師：プロフィール

国際医療福祉大学准教授、北里大学卒、医学博士、

自治医科大学医学部小児科学准教授、日本小児科学会認定小児科専門医、日本小児神経学会小児神経専門医

ADHD診断・治療薬効果判定を可能とする検査法

当院小児科では、ADHD診断・治療薬効果判定を可能とする検査法の開発にも力を入れております。これまで、ADHDの診断は行動観察が中心でしたが、ADHDの原因となる脳機能低下と薬効による回復を客観的にモニターする、機能的近赤外分光分析診断法（ニルス）を用いた研究を進めております。この診断法により、ADHDの客観的な診断が可能となり、早期からのより効果的な療育へと結びつけることが期待されています。この研究は、5年前に国際医療福祉大学病院、国際医療福祉大学リハビリテーションセンター（なす療育園）と自治医科大学で本格的に始まりました。今後、右図のように、ニルス検査が発達障害の診療において、「不整脈には心電図」、「てんかんには脳波検査」、「肺炎にはレントゲン検査」と同じような位置づけになるよう、目指して参ります。

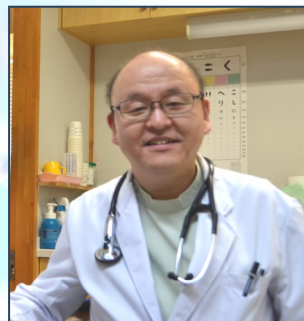


医療法人社団 三森医院

診療所と病院の役割を認識して医療連携をすることが大切。

インタビュー

「かけはし」では、地域の先生方にインタビューをさせていただき地域医療に関わるお話やお知らせをお届けしたいと思います。今回は黒磯・那須地区医師会長の三森先生にお願いしました。



みもり かおる

三森 薫 院長

・那須郡市医師会
黒磯・那須地区
医師会長

当院との医療連携について期待されることはどのような事ですか？

病院-診療所の医療連携では、この地区（黒磯・那須地区）は診療所（かかりつけ医）と国際医療福祉大学病院、菅間記念病院、那須赤十字病院が主体となり行われます。実際の連携の例として入院治療の必要性を判断した時や外来管理が難しい患者さん、診断治療に難渋した時等に診療所から病院へ紹介をすることが挙げられます。また、入院加療が終了し外来で診療する場合や診断治療が一段落し診療所通院が可能となった場合は病院から診療所へ紹介されることもあります。診療所から紹介する病院は患者さんの状況に応じて変わりますが、当院では特に小児の入院が必要な場合や心房細動のアブレーションを検討する場合など国際医療福祉大学病院に積極的に紹介させていただいております。その際は迅速に対応していただいております。今後も更にスムーズな受入を期待しています。

ご自分のクリニックで力を入れていることを教えてください。

基本的には外来と往診を行っているのですが、在宅での管理を軸に、在宅の看取りも含め、在宅医療を積極的に行っていきたいと思っています。在宅医療を行うには人的体制が難しくはありますが、訪問看護師さんと一緒にやれる範囲で今は在宅医療を行っています。往診できる地域としては、以前は那須の別荘地方面や、那須塩原駅方面（旧東那須）の地域も行っていました。しかし、今は外来診療が一人なので午前から午後の外来の合間の時間帯で移動できる距離で往診しております。また、状況によっては午後の診療が終わってから往診に行くこともあります。在宅医療の患者さんは、特に高齢の方が多く、麻痺のある方や軽い認知症の方から寝たきりの患者さんまで対応しております。また、在宅での癌のターミナルにおける看取りも状況が合えば行っています。以前は、人工呼吸器管理が必要な患者さんの対応も病院との連携を密にする形で行ったこともあります。

ご自分のストレス解消法を教えてください。

基本的には、白衣をぬいだ時にオンオフを切り替えています。

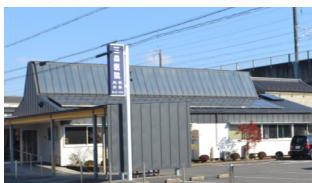
我が家では7歳と5歳になる年の離れた兄妹の猫を飼っているのですが、猫たちの自由気ままな、愛らしいしぐさを見たりしているととても癒されています。また、仕事が終わった後にビールを飲むこともストレス解消法の一つです。

また、土曜日の夜にスポーツ吹矢に参加しています。なかなか聞きなれないスポーツかと思いますが、どなたでも参加できるスポーツで、矢を的の中心に命中させようと熱中しているだけでもストレス解消できます。特に矢が命中した時には満足感と爽快感をもたらしてくれますし、矢を吹くときに、腹式呼吸を使って呼吸をします。腹筋と腹式呼吸力が強化されます。また、肺活量が多くなり、循環促進につながります。男女の差もなく、車イスの方でもできるスポーツなので最近では呼吸の訓練などでリハビリとして取り組んでいる病院もあり、楽しみながらリハビリができると思います。

最後に地域の方々、患者さんへ一言お願いします。

病院と診療所の役割分担を理解していただきたいと思っています。診療所では、かぜや高血圧などの一般的な病気を中心に診療し、その中で入院が必要となる患者さんや診断治療に難渋する患者さんなどを病院へ紹介します。一方病院では診療所より紹介のあった患者さんの診断・治療、重症な患者さんの入院加療を行う役割があります。患者さんにとっては診療所も病院も同じものに見えるかもしれませんが、それぞれの役割が違うことを知っていただきたいと思っています。そうすることによって診療所の役割を理解していただき、かぜなどちょっとした症状の時はまず診療所を受診しその中で病院を受診した方が良い場合は紹介状を持参し病院を受診するようしていただきたいと思っています。これらのことをスムーズに行うために普段から、なんでも相談できる、かかりつけ医を持っていただくことが大切で、そうすることによりそれぞれの役割分担がスムーズに進みかつ患者さんの満足度も上がると思います。

【基本情報】



院長 三森 薫

住所 那須塩原市宮町1-9

電話 0287-62-1095

診療科目 内科・呼吸器科・胃腸科・循環器科
アレルギー科・小児科・外科・皮膚科

休診日 日・祝日・水（午後）曜日

2016/2/24 国際医療福祉大学病院
発刊：地域医療連携室